

県立広島大学 図書館企画展示

旅人が見た厳島

—忘れられた風景—



平成25年7月1日(月)～7月16日(火)

開館時間：平日は9時～21時30分、土曜日は12時～18時、日曜日・祝日は休館。

展示説明会

7月1日(月)、10日(水)、16日(火)[12時30分～13時]

7月6日(土)、13日(土)[13時30分～14時]

会場：県立広島大学広島キャンパス図書館2F

(広島市南区宇品東1-1-71)

主催：県立広島大学宮島学センター・広島キャンパス図書館

問合せ先

(展示内容について)

宮島学センター・大知(おおち)

電話：082-251-9550

(図書館のご利用について)

電話：082-251-5179

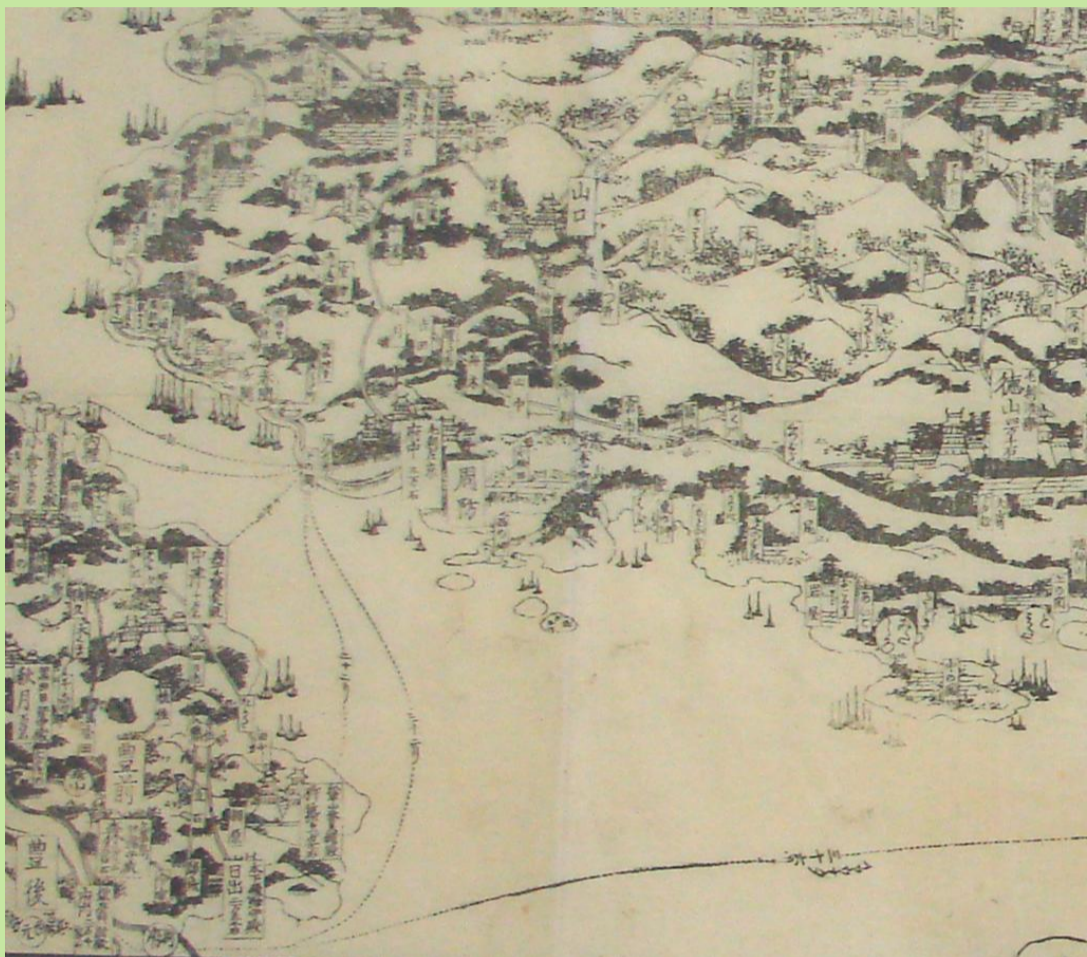
図書の貸出をご希望の場合は現住所の確認できる健康保険証・運転免許証などをお持ちください。

来客用の駐車場はありませんので、公共交通機関でご来場ください。

展示は無料でご覧いただけます。

Q. 江戸時代、筑前国(福岡県)から厳島までの旅は、どのくらい時間がかかったのでしょうか？

A. 江戸時代の旅日記「東路日記」では、筑前国底井野(福岡県中間市)から厳島までの旅に17日かかっています。



從攝州尼ヶ崎至長州萩府道中細見記
慶応元年(1865)、金林堂板

天保12年(1841)、1月16日に底井野を出発した小田宅子ら一行は、その日のうちに船で赤間関(山口県下関市)に辿り着きましたが、風待ちのために、24日まで留まりました。

当時の船旅は、荒波や風待ちで時間がかかることもあったのです。

2月3日には岩国の錦帯橋を訪れ、翌4日ようやく、厳島に辿り着きました。底井野を出発してから、17日後のことでした。

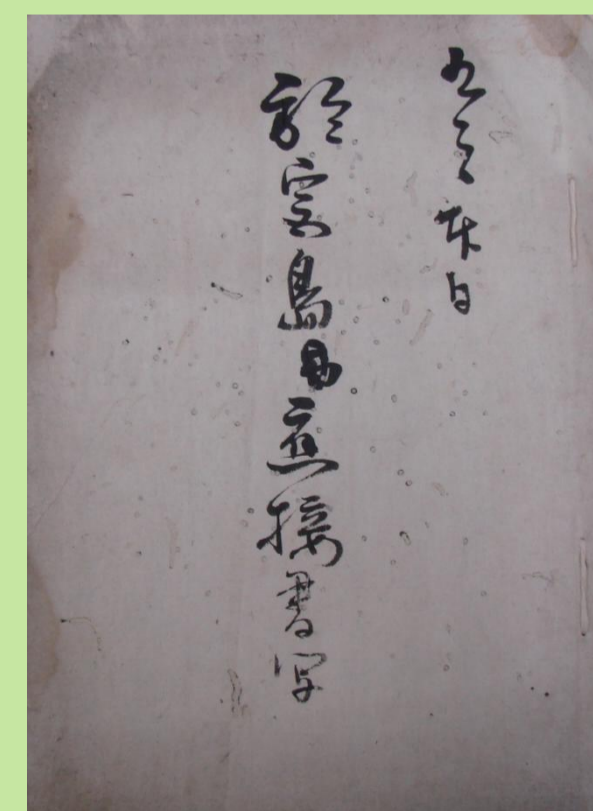
※この年の1月は小の月で29日までです。



展示内容

今回は、近世・近代に厳島を訪れた人々の日記や紀行文を読み解き、関係する資料を展示します。また、近年、新たに収集した幕末の厳島に関する資料や、旅の土産物、もみじ饅頭についても紹介します。

現在では忘れられつつある厳島の史跡・名所の、かつての姿をよみがえらせます。



於宮島留応接書写

慶応2年(1866)大願寺における勝海舟と長州藩との停戦交渉記録の写

アクセス

- 広島駅から
【バス】広島バス「31号(翠町)線」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車、徒歩1分
【市内電車】[5] 広島港(宇品)行きにて「県病院前」下車、徒歩7分
- バスセンター(紙屋町)から 【市内電車】[1] [3] 広島港(宇品)行きにて「県病院前」下車、徒歩7分
- 広島港(宇品)から 【市内電車】[1] [5] 広島駅行き又は[3] 広電西広島(己斐)行きにて「県病院前」下車、徒歩7分
- 八丁堀(天満屋前)から
【バス】広電バス「12号線(仁保沖町)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車、徒歩1分

